

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅴ Independent Living Skill V		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特記なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子／久保由佳	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
疾病や事故に起因する運動機能障害の特性を中心に、個々の具体的な生活障害を理解し、介護における基本的な視点や留意点について学ぶ。そして、日常生活上の支障が軽減できるよう、生活支援技術Ⅱと連動した生活支援技術を習得する。				
授業の目標				
①運動機能障害に関連する主な病態と症状および具体的な生活障害を説明できるようにする。 ②運動機能障害のある人への基本的な介護の視点と留意点を説明できるようにする。 ③運動機能障害のある人への適切な技術を習得できるようにする。 ④日常生活の拡大を図るための福祉用具の知識を習得できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが講義も併用する。運動機能障害による生活障害を具体的に理解するために、運動機能障害を想定した演習をおこなう。				
学習の成果（学習成果）				
運動機能障害を引き起こす疾患がわかり、ADLを中心とした生活障害を説明することができる。そして、障害の状況に応じた福祉用具を活用し日常生活の拡大を図ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）運動機能障害と生活障害との関連 運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点① 脳血管障害 その1（新井）			
第2回目	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点② 脳血管障害 その2（新井）			
第3回目	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点③ 骨・関節疾患、脊髄疾患（新井）			
第4回目	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点④ 脳性麻痺、筋萎縮性疾患（新井）			
第5回目	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点⑤ パーキンソン病、四肢の欠損・切断（新井）			
第6回目	利用者の状況に応じた生活支援技術① 片麻痺のある利用者への上方・水平移動、体位変換、端坐位 【演習】（新井・久保）			

第7回目	利用者の状況に応じた生活支援技術② 片麻痺のある利用者への端座位、移乗 その1 【演習】 (新井・久保)	
第8回目	利用者の状況に応じた生活支援技術③ 片麻痺のある利用者への端座位、移乗 その2 【演習】 (新井・久保) (レポート1 提出:第9回目)	
第9回目	利用者の状況に応じた生活支援技術④ 対麻痺・四肢麻痺のある利用者への体位変換、移乗 【演習】 (新井・久保)	
第10回目	片麻痺のある利用者への移乗・移動に関するまとめ 【演習】 (新井・久保) (レポート2 提出:第11回目)	
第11回目	片麻痺のある利用者への体位変換・移乗技術習得の確認 (実技試験含む) 【演習】 (新井・久保)	
第12回目	運動機能障害に伴うな症状と介護上の留意点① 運動麻痺、知覚障害等、言語障害等 (新井)	
第13回目	運動機能障害に伴うな症状と介護上の留意点② 意識障害、失行、失認等 (新井)	
第14回目	重複障害と生活障害、まとめ、筆記試験 (新井)	
第15回目	機能代行と補助機器、福祉用具の活用(移動用リフト) 【演習】 (新井・久保)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	配布資配を活用し自主的にメモをしている。演習時は身支度を整え、積極的・自主的に参加している。指導を受け入れ技術を習得しようと努力する姿勢がみられる。
レポート	20%	1・2: 演習の振り返り 1-S: 演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記述している。2-S: 目標の達成度について、自己評価し具体的に考察している。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	実技試験20%、筆記試験(選択や記述式) 40%の割合で評価する。筆記試験は授業の内容を踏まえた記述形式である。自筆ノート・配布資料の持ち込みを許可する。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 ①新・介護福祉士選書8 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル		
履修上の留意点・ルール		
講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。実技試験については他科目の実技試験との兼ね合いから、別途提示する。		